

地域コミュニティの現状と課題を振り返る

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会の 検討結果共有

概要版

人口減少時代の地域コミュニティのあり方 報告書 ～持続可能な地域共生社会に向けて～

2020年（令和2年）1月

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

はじめに…

福山市では、2006年度（平成18年度）から、地域と行政が「協働のまちづくり」の理念のもと、補完・協力し合いながら地域課題の解決に取り組み、自助・共助・公助による住みよいまちづくりを進めています。

私たち福山市地域コミュニティのあり方検討委員会では、人生100年時代を迎えるなかで、人口減少が進むこれからの地域社会にあっても、地域で支え合いながら暮らせる地域コミュニティの形を描くため、「地域の負担軽減」「地域支援制度」「地域組織体制」などをテーマに、自らの組織を振り返り、話し合いを重ね、地域と行政の具体的な役割分担や、地域コミュニティのあるべき姿について、検討を行ってきました。

併せて、市内2地域で取り組まれている「福山市持続可能な地域コミュニティ形成モデル事業」や行政内の検討状況の報告を受けながら、地域運営組織の連携イメージをまとめました。

地域コミュニティは同じ地域に生活する住民同士がつながりあい、暮らしを支え合う組織や営みです。それぞれの地域コミュニティや行政・専門機関が連携・協働し、複雑・多様化する地域課題の解決に取り組むため、「役員主体の地域づくり」から「地域住民をはじめ多様な主体の参画による『みんなで共に創るまちづくり』」へ転換することにより、人口減少社会にあっても、安心して暮らせる持続可能な地域共生社会をめざしていきましょう。

2020年（令和2年）1月20日

福山市地域コミュニティのあり方検討委員会

昨年度に開催された検討委員会のとりまとめである、「人口減少時代の地域コミュニティのあり方報告書～持続可能な地域共生社会に向けて～」のあらましをふりかえります。

お話をさせていただくこと

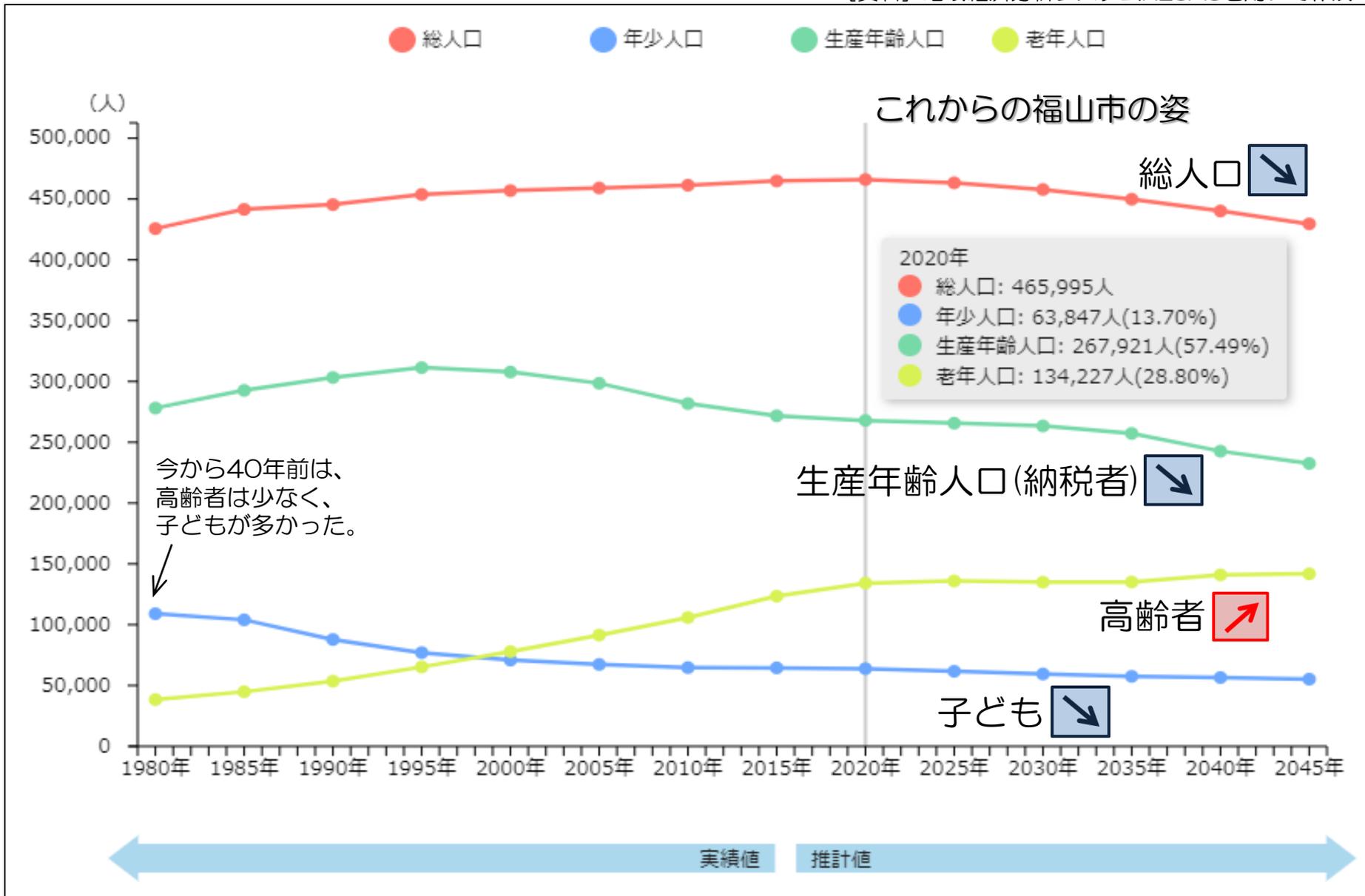
1. 時代は変わってきました・・・
2. 地域(学区)をとりまく状況も変わってきた
3. みんなの望み・希望は？
4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

福山市立大学 都市経営学部
教授 渡邊 一成

1. 時代は変わってきました・・・

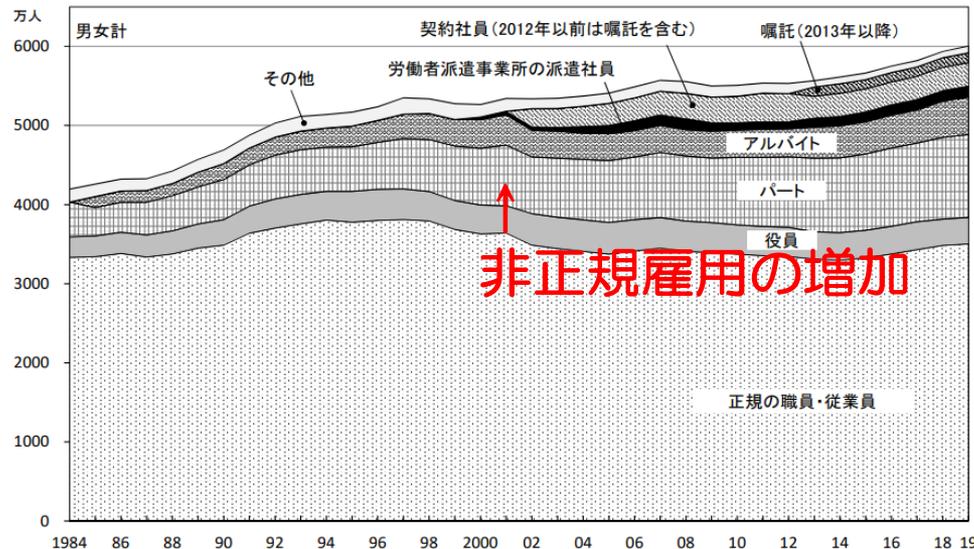
福山市の人口推移

[資料] 地域経済分析システムRESASを用いて作成

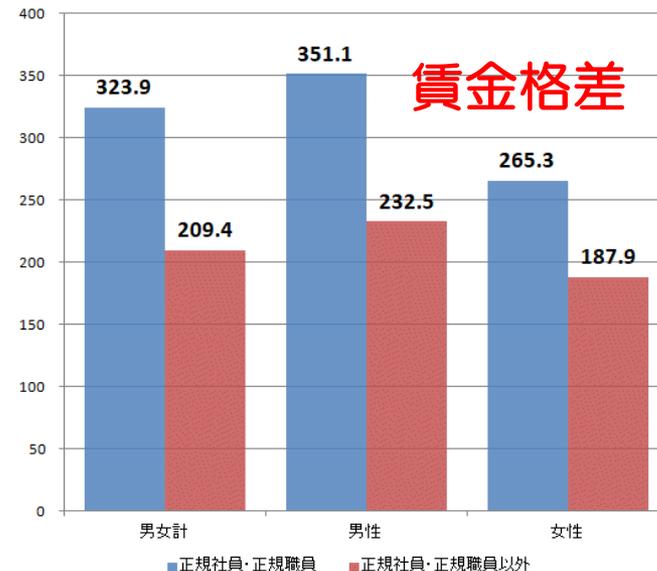


1. 時代は変わってきました・・・

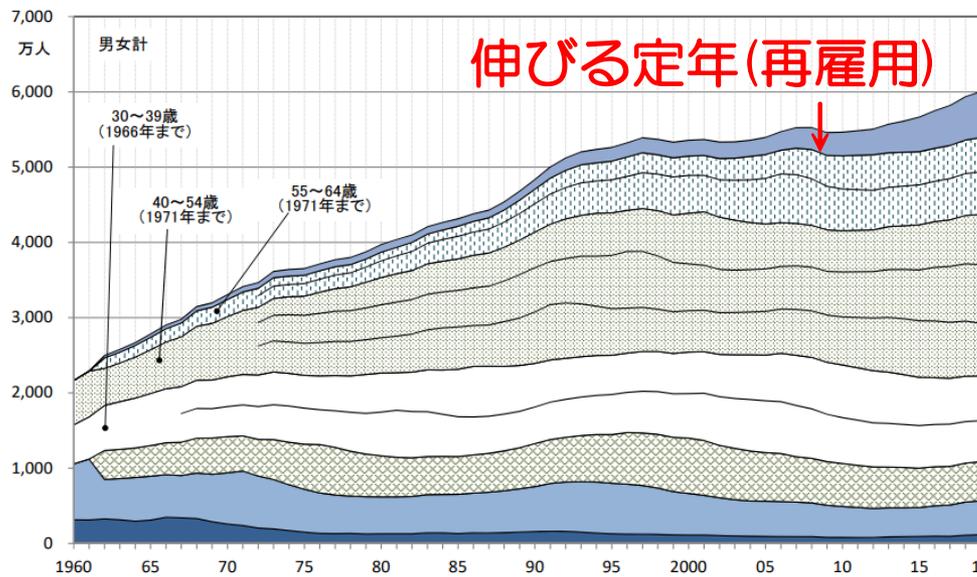
雇用形態別雇用者数（全国、1984年～2019年）



雇用形態別平均賃金(男女別、千円)(2018年)



年齢階層別雇用者数（全国、1960年～2019年）



雇用形態間の賃金格差

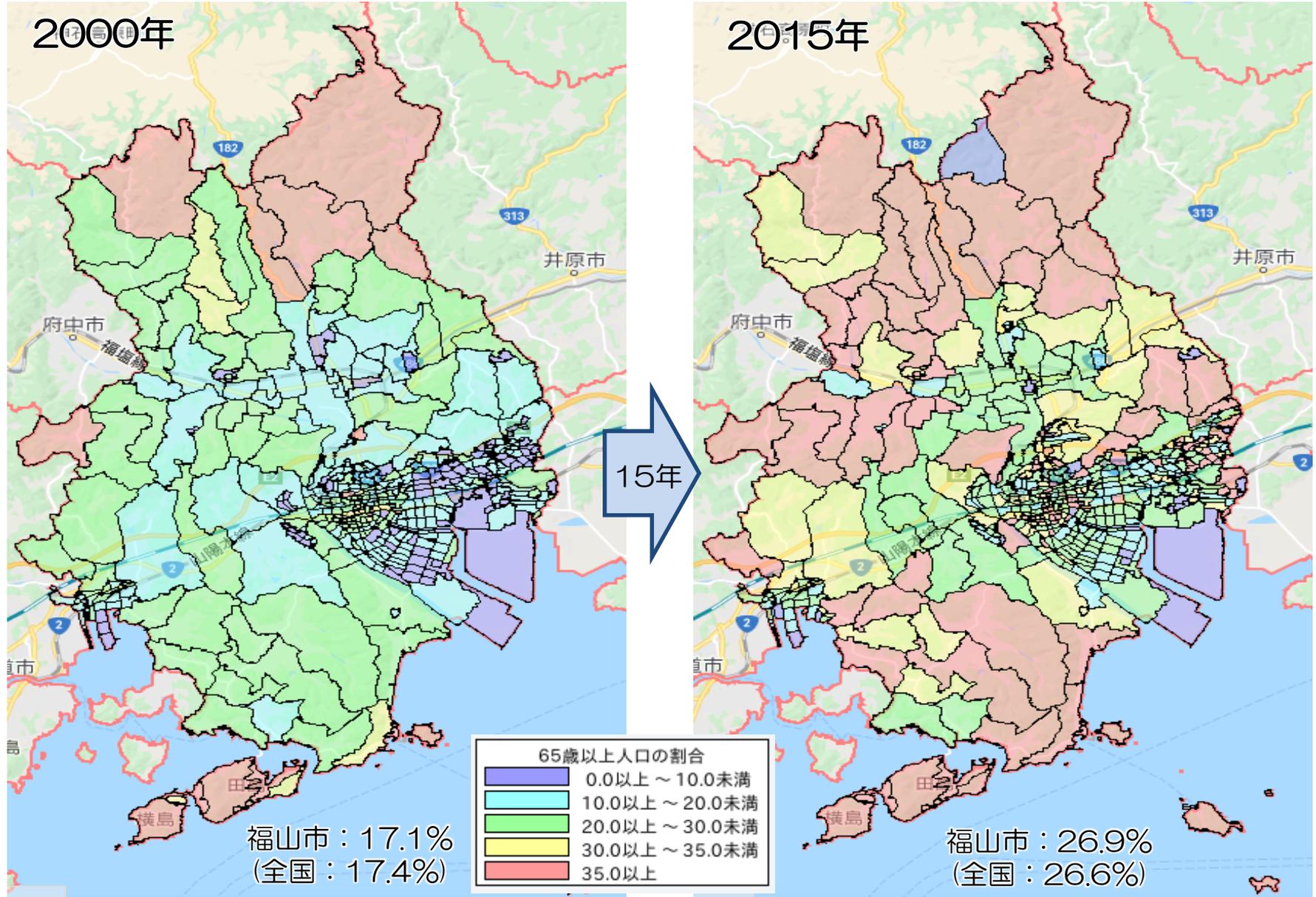


※平成29年賃金構造基本統計調査より

2. 地域(学区)をとりまく状況も変わってきた・・・

福山市の人口推移 小地域（町丁字等）別高齢化率

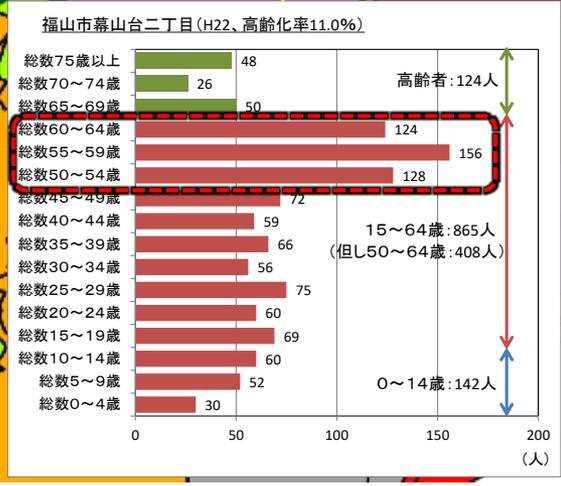
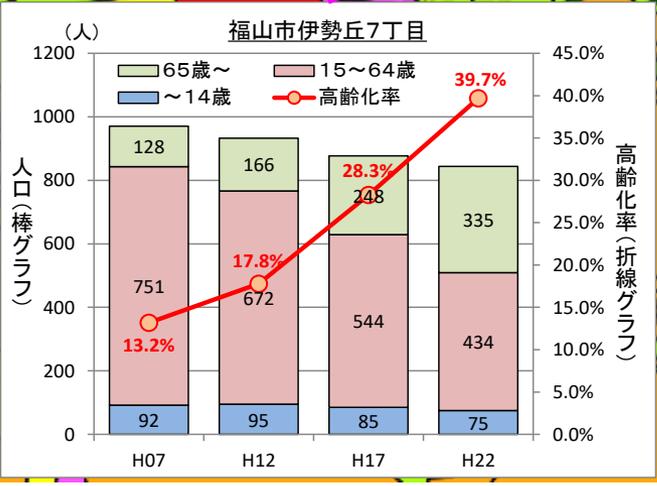
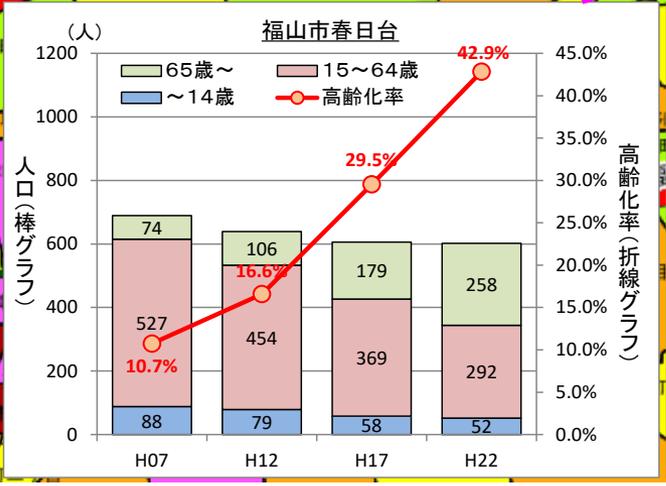
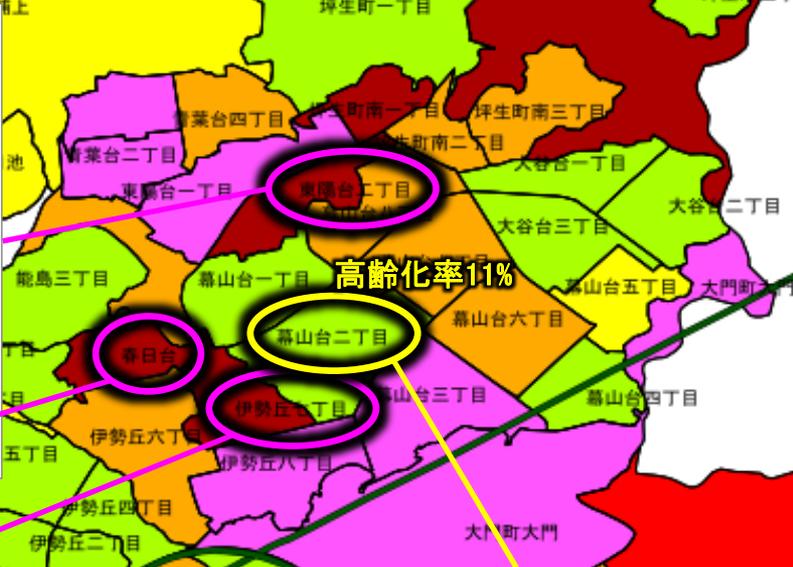
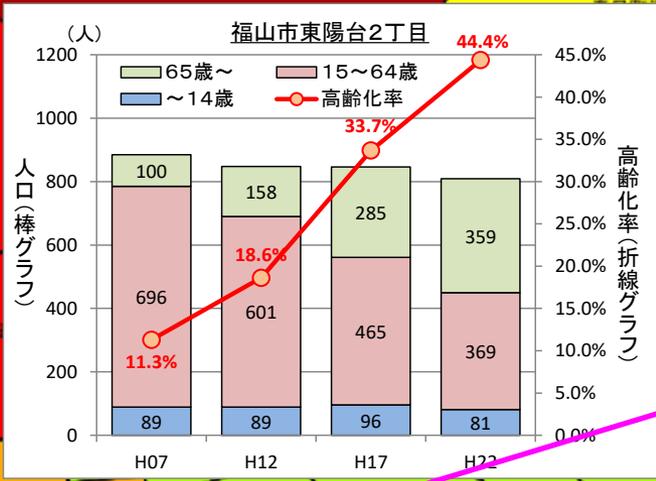
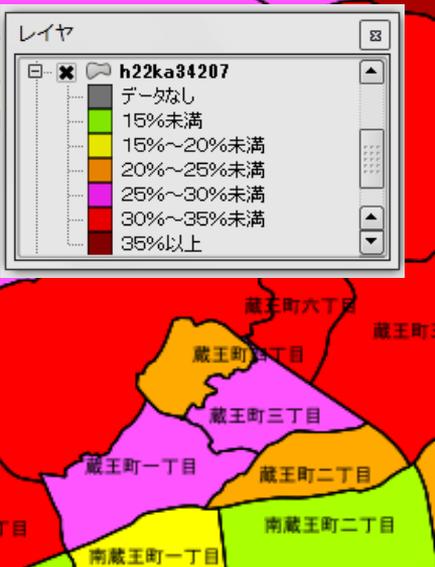
[資料] j STATMAPを用いて作成



2. 地域(学区)をとりまく状況も変わってきた・・・

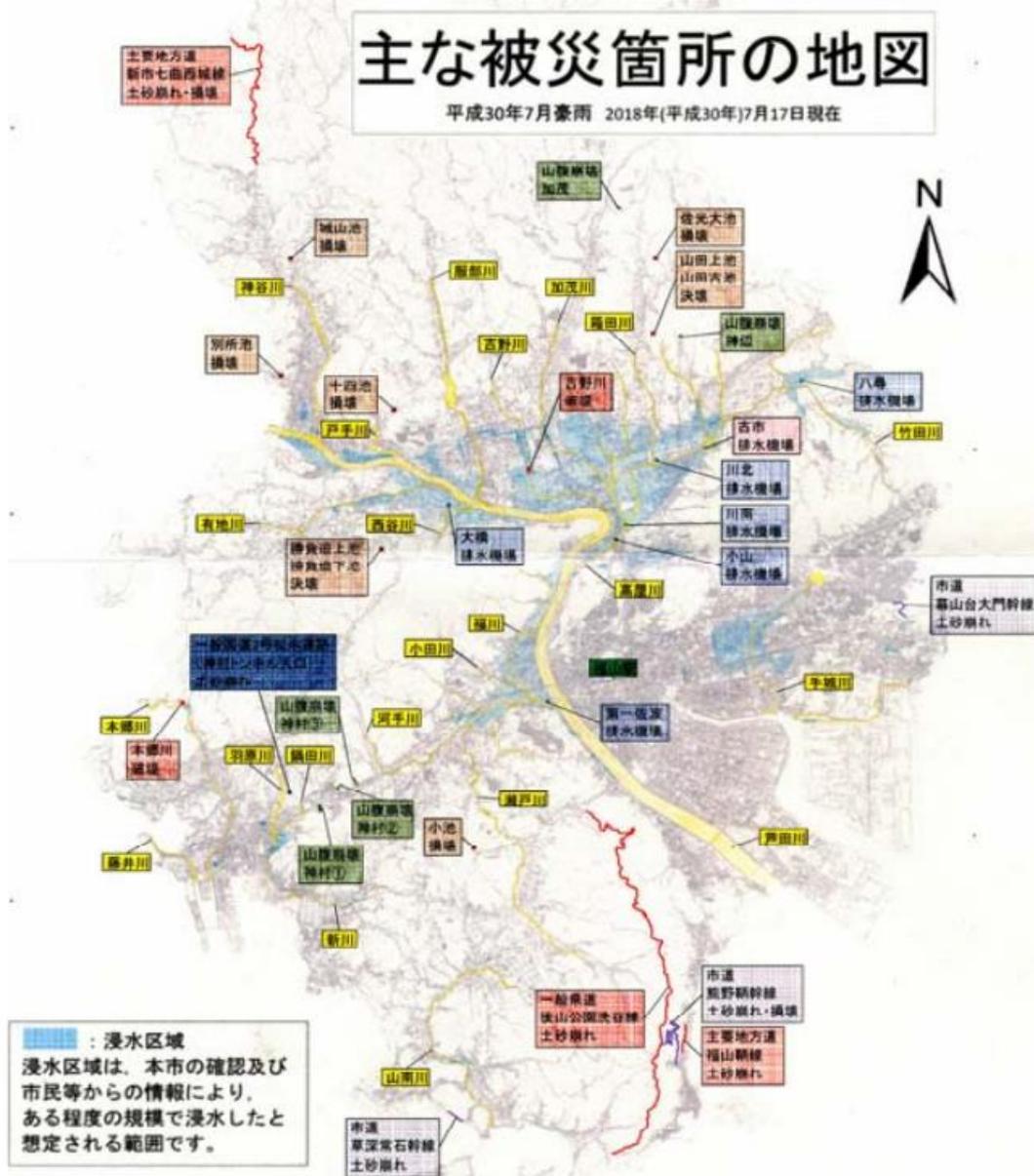
福山市東部地域における高齢化の進展

ベッドタウンとして新たに開発された地域（ニュータウン）では、**同時期に同世代が入居してきたことから、一気に高齢化が進んでいく**



2. 地域(学区)をとりまく状況も変わってきた・・・

福山市における被害内容・被害箇所



浸水被害対策

- 神辺平野、山手地区、南蔵王地区、松永地区などにおいて、約2000haに及ぶ浸水被害が発生（市域の4%）
 - 浸水の主たる原因は、中小規模の河川氾濫、市街地を流れる農業用水の氾濫
- ↓
- 排水機(ポンプ)の性能アップ、河川改修事業など、国・県・市が連携した総合治水対策に取り組む
 - 甚大な浸水被害が広く発生した一方、福山駅周辺や芦田川下流左岸域では浸水被害が発生していない。なぜ？
→高機能な排水機の設置
→雨水幹線、雨水貯留施設の整備

3. みんなの望み・希望は何か？

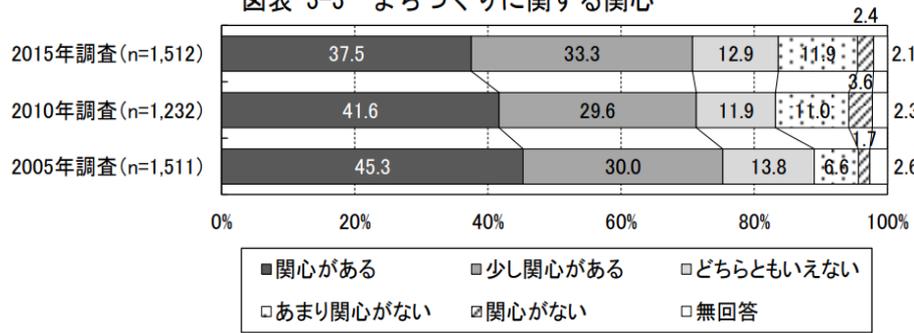
福山市や地域(学区)をとりまく状況

世の中、相当に変化してきている。それも急速に。

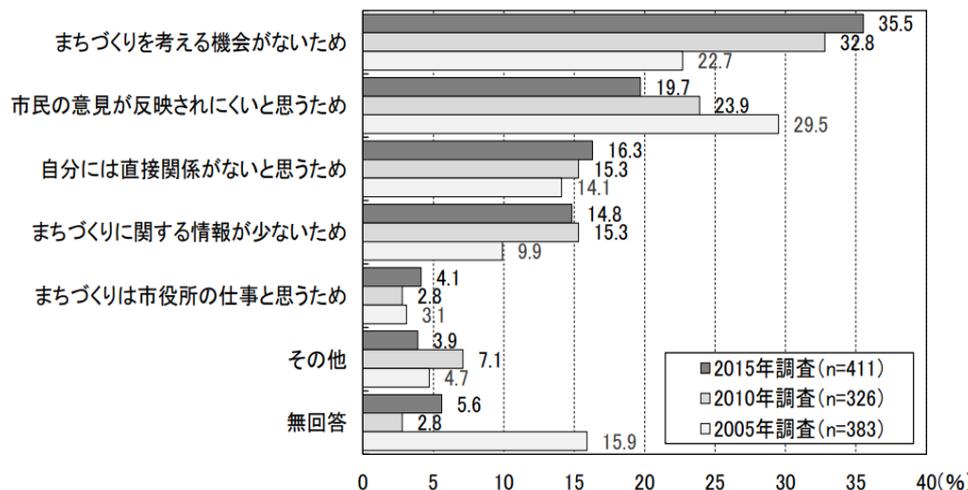
これに呼応して人々の生活スタイルや考え方、価値観も変化・・・

「まちづくり」に対する市民意識は？

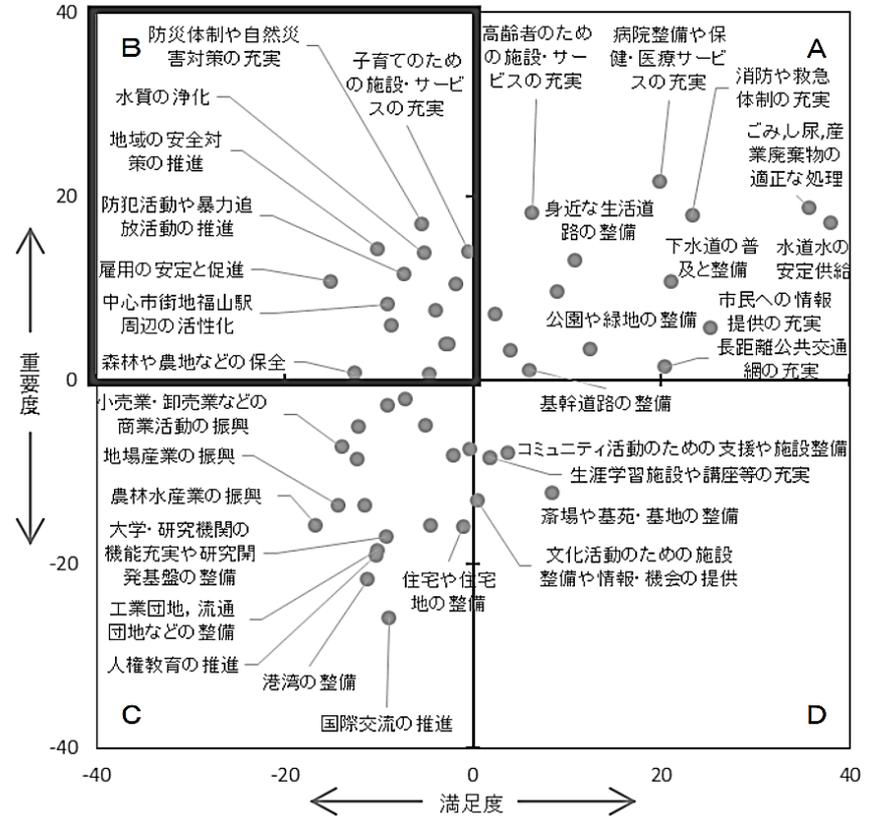
図表 3-3 まちづくりに関する関心



図表 3-4 関心を持たない理由(複数回答)



図表 3-6 行政サービス等の満足度と構成比の相関図



自分の暮らしに直結した課題への重要度が高く、満足度が低い

4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

まちづくりに関心をもたない理由

- 考える機会がない (35.5%)
- 意見が反映されにくい (19.7%)
- 直接関係がない (16.3%)
- 情報が少ない (14.8%)
- 市役所の仕事だ (4.1%)



重要度が高く、満足度が低い

- 防災・自然災害対策 ○地域安全対策
- 子育てのための施設・サービスの充実
- 防犯・暴力追放の活動推進
- 雇用の安定 ○中心市街地活性化
- 森林や農地などの保全

「みんな」で「安心して暮らせる持続可能な地域共生社会」をつくる

- ・歴史、気候や人付き合いなど（地域の実情）を一番よく知っている地域住民が、
- ・法制度・事業制度（解決策の選択肢）をよく知っている行政とともに、
- ・地域課題の解決方法（最善策）を話し合いながら、考え、取り組む

※「協働のまちづくり」は“手法”であって“目的”ではない！

※「協働のまちづくり」の目的は“よりよい地域・よりよい街をつくり育てること”



ところが現実・・・



なぜ、こうなったのか・・・

- 地域づくりは、活動を担う各民主団体の役員を中心に行われてきているが、担い手不足が深刻化し、役員が多忙化が増大し、活動に関わるマンパワーの慢性的な不足、一人が多く役職を兼務する状況（負担感）に陥っています。
- 行政各課から地域へ協力要請する事項は依然多く、これを受ける地域は、行政からの膨大な依頼に対する負担やボランティアによる取組の限界を感じている。
- 地域づくりの支援は、拠点である公民館・交流館と連携しながら支所が包括的に関与し、本庁は個別課題に縦割りに対応しており、「地域に寄り添う姿勢」が希薄な状況。

4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

【地域コミュニティがかかえる課題】

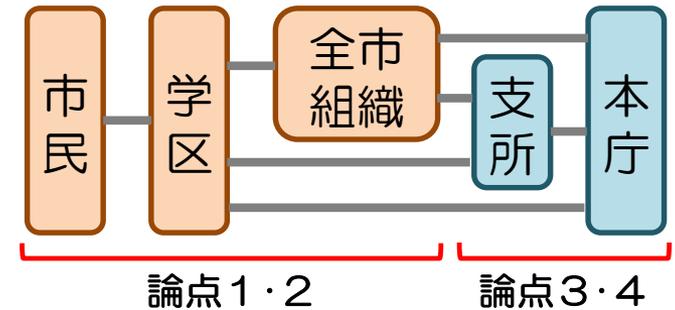
- 担い手不足が深刻化し、役員の多忙化・慢性的なマンパワーの慢性的な不足、役職兼務状態
- 行政からの膨大な依頼に対する負担やボランティアによる取組の限界
- 行政の「地域に寄り添う姿勢」が希薄

原因として考えられることは・・・

- ※「協働のまちづくり」という“手法”が“目的”に変わってしまっているのではないか？
- ※「協働のまちづくり」の“目的”が“課題解決”となり得てないのではないか？

そこで・・・

主体間で“手法”や“目的”が上手く繋がっていないのでは？



(1) 地域と行政の役割・取組

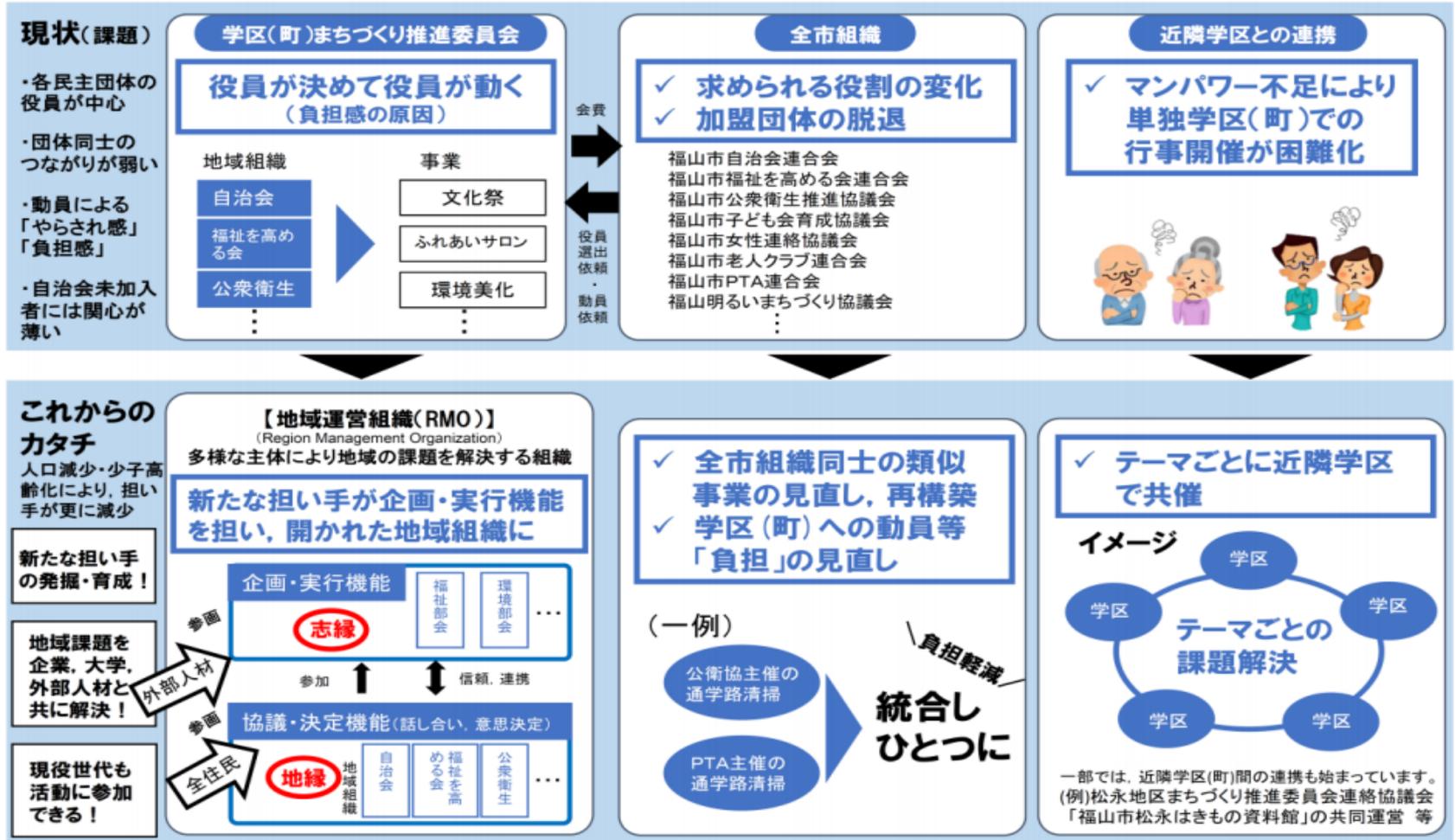
- 論点1 多様な主体が力を発揮できる地域づくりの検討
(みんなで取り組む地域づくりへの転換)
- 論点2 複雑化した地域自治組織のスリム化, 各種団体役員のあり方や効率的な組織運営の検討 (地域組織・協議体の再構築, 会議や情報伝達方法の研究)
- 論点3 行政から地域への依頼事項の抜本的な見直し
(地域への負担の軽減)
- 論点4 行政による地域支援体制の再構築・強化
(庁内連携, 職員の意識改革・地域コミュニティ支援方法の確立)

まずは“急速に、相当に変化している地域がおかれた状況”を鑑みて、「協働のまちづくり」(手段)の改善(手段の一部である体制・手法の見直し)に着手することを提案。

4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

(2) 人口減少時代の地域づくり

議論を踏まえた地域コミュニティのあり方 ～現状とこれからのカタチ～



- 開かれた地域運営組織に (幅広い住民による座談会を通じた担い手の発掘, 外部人材の参画等)
- 近隣学区(町)との広域連携 (テーマごとにつながり合い, 地域課題を解決)
- 全市組織の活動の見直し (類似事業の統合, 動員などの負担軽減): 活動方法の見直し
- 地域を支える横断的な行政支援 (縦割りではなく横断的な連携により地域を支える仕組みを構築)

4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

(3) 全市組織の活動の見直しに向けて

各民主団体から出された「今後の取組の考え方」

方法・内容のブレイクダウン
(具体化)が重要

【取組“方法”に関すること】

- 組織強化を継続
- 回覧・配布物について精査・スリム化
- 再構築が大きな課題
- 全市組織と学区が情報を共有
- 中央委員のあり方検討
- 保護者の負担を減らす
- 対話し交流するなど活動を広める
- 活動に関心をもっていただき、協力体制を構築
- 次の世代にバトンタッチ
- 支える側、支えられる側が共に対等
- 活動を見直し、責任を分担・軽減
- 他人事ではなく、自分のこととして解決
- 包括的な相談支援体制の構築
- 次世代に引き継ぐ体制づくり
- 新しい人を入れる努力・違うグループの意見・新しい発想
- 情報共有はメール活用
- 会議数を減らす
- 行事の統合
- 各種団体の年間行事を共有

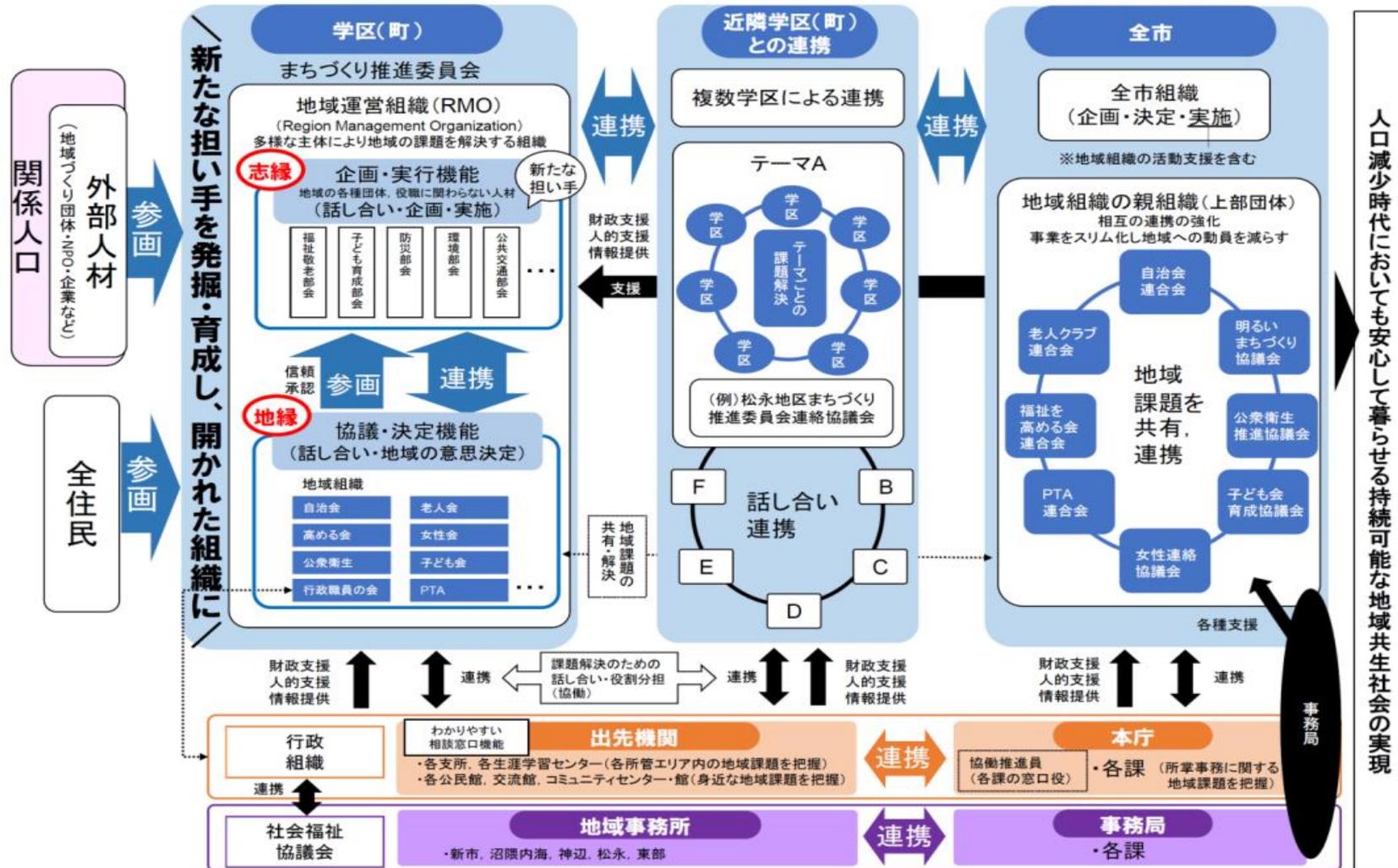
【取組“内容”に関すること】

- 災害時の自助・共助
- 活動のあり方を会員や各委員会委員と検討
- 地域ぐるみで子どもを育てる気運を高める
- 取組目標を明確
- 受身から能動の姿勢で課題に取り組む
- 健康寿命を延ばす・楽しい集いや話し合いの場を多つ・フレイルの予防
- 地域とのつながりを絶やさない努力
- 地域共生社会の実現

4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

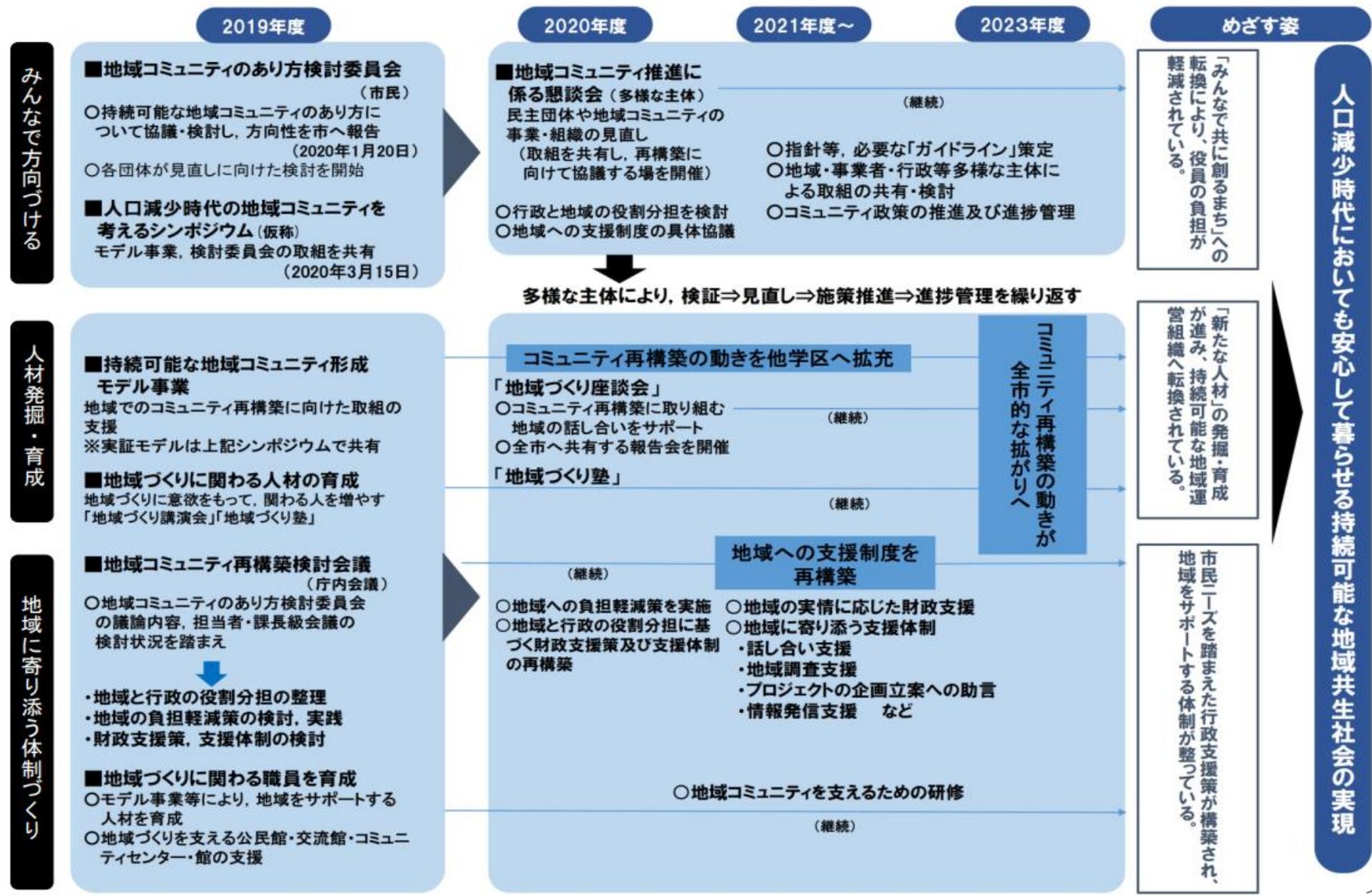
(4) 人口減少時代の地域コミュニティのかたち～みんなで共に創るまちへ～

多様な主体により地域の課題を解決する学区（町）まちづくり推進委員会が、複数学区と連携し、テーマごとの課題解決に取り組んだり、全市組織や行政、社会福祉協議会とお互いに情報を共有・連携し、みんなでまちづくりを行う



4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

(5) 行政施策の展開イメージ



4. よりよい地域(学区)、よりよい街とするために

協働のまちづくり

まちづくりに関心をもたない理由

- 考える機会がない (35.5%)
- 意見が反映されにくい (19.7%)
- 直接関係がない (16.3%)
- 情報が少ない (14.8%)
- 市役所の仕事だ (4.1%)



重要度が高く、満足度が低い

- 防災・自然災害対策
- 地域安全対策
- 子育てのための施設・サービスの充実
- 防犯・暴力追放の活動推進
- 雇用の安定
- 中心市街地活性化
- 森林や農地などの保全

「みんな」で「安心して暮らせる持続可能な地域共生社会」をつくる

- ・歴史、気候や人付き合いなど（地域の実情）を一番よく知っている地域住民が、
- ・法制度・事業制度（解決策の選択肢）をよく知っている行政とともに、
- ・地域課題の解決方法（最善策）を話し合いながら、考え、取り組む

↓ であるならば・・・

手法(体制・手法)のみの改善では本質的な改善に至らないのではないか？

手段(体制・手法)とともに、目的に適合し時流に即した地域課題の解決策(最善策)への対応(市民が必要と感じる・参加したくなる活動内容への転換)も不可欠なのではないだろうか？